板橋のミライ INTERVIEW No.3

牧製本印刷株式会社
牧 孝吉

出版文化を製本で守る使命

出版関連業界は、今後も厳しい状況が続くと予想されますが、私は製本に付加価値をつけることによって、利益を享受できると思っています。
私は「トリアージ」という言葉を使うのですが、印刷製本業界は今後ますます企業数が多い中で出版点数・部数が小さくなっていきますので、企業のトリアージが必要であると考えています。
トリアージつまり優先順位を決めるという事ですので、企業はお客様の中での優先順位を上げ、選ばれ続ける会社になることが必要です。
では自社が選ばれ続ける会社になるためには何が必要なのか？ネームバリューや伝統もその要素かもしれません。しかし納期に間に合うようにお客様の要望通りに間違いなく「美しい本を作る」という信用・信頼が、当たり前の

ことですが重要であると思っています。
弊社は当たり前のことを当たり前にするというただ普通のサービスを実直に守り、お客様の立場に立ってきめ細かいサービスの提供をしてきました。また、製本に関する知識をフル活用し、お客様の要望に寄り添った提案を差し上げてきました。その上で今後はお客様に今まで以上に付加価値を与える事が選ばれ続ける会社になるために必要であると思っています。
弊社は創業1901年、今年で124年目を迎えることになり、創業から現在に至るまで製本業一筋で経営しています。
私の祖父の「会社を必要以上に大きくする必要はないし製本業一本でやっていくんだよ」という言葉は、今でも私の心に大きな影響を及ぼしています。
企業は尖っていくこと、他社との差別化が重要ですが「弊社にとって一番尖りやすいのは？」と考えた時、やはり製本業であり、祖父の言葉そのままであると思います。
弊社は今後も製本業一筋に付加価値をつけ、もっと尖っていこうと思っており、お客様が手に持った時に「いい本だよね」「すごく収まりがいいよね」と言っていただける。本の中に何が書いてあるのかではなく「本の作り」を褒めていただける「牧製本がつくる美しい本」をこれからも作り続けていきたいと思っています。
「製本業を通じて出版文化の継続・発展（存続繁栄）に貢献する」これが弊社の経営理念です。
私は弊社に入社し、改めて出版業界における弊社の存在の大きさを知りました。
どこの会社にお邪魔しても、業界の集まりに参加しても、「牧製本さんですか？いつもお世話になっています」「あなたは牧製本さんのどなたの息子さんですか？」と決まって声を掛けられる。営業活動を続けていく中で、出版業界と弊社のつながりを強く感じ、出版業界における弊社の使命を強く感じるようになりました。
「間違いのない本、美しい本を世の中に提供するという使命を全うしよう」という企業理念の一つとして、この思いを掲げ会社全体で共有しています。
私は、人は誰しも生まれてきたからには何かしらの使命や役割が必ずあると思っています。
「生きるってなに？」「何のために生まれてきたの？」「働くって何？何のために？」など、突き詰めて深く考えることが必要で、それにより、働くことに意味を持たせ、人生がより豊かになると思っています。
そのようなことを考える機会を与える事、教える事、そして大人がその姿を見せる事など「教育」が重要であると強く感じています。
何か世の中の学びに本を活用してもらえれば幸いと考えおりますし、身近な地域としての板橋区の取り組みにも協力できればと思っています。
例えば子供のころに本を読み考える習慣をつけるために、本を身近に感じ触れ合ってもらうために、工場見学や本作り体験的なことを企画できればと考えています。
教育という意味もありますが「本の魅力を後世に伝えていく」という弊社の使命にも合致することだと思います。

牧製本印刷株式会社
牧 孝吉氏

印刷・製本のまち板橋

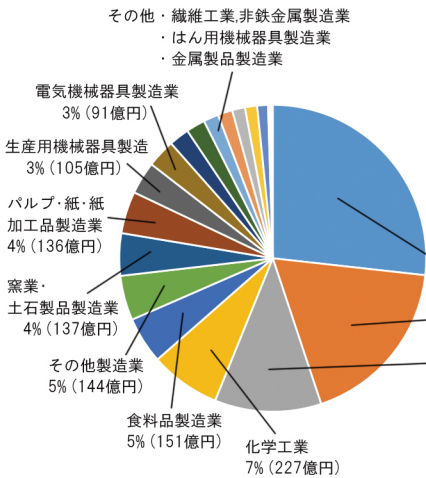
板橋区は印刷･製本の会社の集積地です。大手印刷会社、中小の印刷会社や関連する大小の製本会社が集まっているほか、紙、インキ、印刷機器のメンテナンスや卸を営む事務所などが相対的に集積しているのが板橋区の特徴です。

全国 印刷・同関連業 製造品出荷額等 上位５位

第１位	埼玉県蕨市	915億円
第２位	東京都江東区	850億円
第３位	**東京都板橋区**	**822億円**
第４位	東京都北区	679億円
第５位	埼玉県戸田市	675億円

※令和３年度経済センサスより

板橋の印刷・製本は
全国でもトップクラスの出荷額！



印刷・製本は区内の産業の約３割を占めています！

板橋区製造品出荷額等（3104億円）

印刷・同関連業	**27%（822億円）**
業務用機械器具製造業	18%（557億円）
鉄鋼業	11%（345億円）

※令和３年度経済センサスより

板橋の印刷・製本の歴史

明治時代中期

銀座や神田を中心に印刷企業が多く立地し、新聞をはじめ書籍が製造される

大正時代

印刷の需要が拡大し、印刷機の大型化、動力化が進む

昭和 13（1938）年

凸版印刷㈱が東京市板橋区志村（現志村一丁目）に板橋工場を竣工し
操業を開始

昭和 30年代

多色刷りに対応するため機械が大型化。
千代田区や文京区、新宿区など印刷業が集積していた主要な都市部での
住工混在の問題から、比較的土地が広く、かつ工場が立地していた
板橋区に中小印刷企業が集積するようになる

昭和 53（1978）年ごろ

板橋区内での印刷関連業の工場数がピークを迎える

昭和 61（1986）年

工場団地の「板橋プリンティングプラザ」が開設し、印刷業の集積化が進む
印刷業は板橋区の製造品出荷額等でも50%を占めるほどの一大産業となる

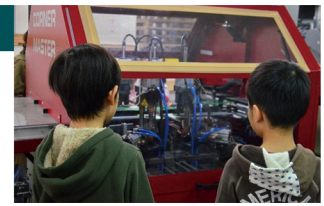
現在

平成不況やリーマンショック、新型コロナウイルスなどの
外部経済環境の変化のなか
BtoC向けコンテンツの拡大デジタル化との共存など
現在進行形で印刷関連業は変化し続けている

区内の印刷製本企業と連携した今までの取り組み

いたばし絵本国際翻訳大賞では、区内印刷事業者が製本出版に協力しているほか、工場見学や体験教室など区内の印刷製本企業と連携して様々な取り組みを行ってきました。
今後は、令和３(2021)年３月にオープンした中央図書館に「いたばしボローニャ絵本館」が併設されたことを踏まえ、「絵本のまち板橋」関連事業と連携しながら区内印刷・製本業や関連企業の認知度を高めるための事業や、産業と文化を融合させた取組を検討していきます。

製本工場見学・体験教室



手製本ノート作り体験

親子による絵本づくり

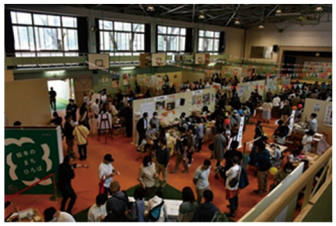
作家・編集者・印刷製本企業それぞれの立場での絵本づくりに対する想いやこだわりを語るトークショー

「絵本のまち板橋」事業の展開

板橋区では、持続可能な地域の発展に向けて、
「絵本」と区との関係性に着目し、これを区の独自性と位置づけ、
「絵本のまち板橋」を区のブランドとして展開、推進しています。

そこでめざすものは、子どもから大人まで、あらゆる人が絵本に親しみ、
絵本を通じて自己、他者そして社会・世界を理解し、
交流と活動が生まれるまちです。
また、創作者が集まり、交流を通じてその能力が発揮され、
新しい絵本や絵本文化が創造されるまちでもあります。

さらにそこでは、絵本そのもの、
あるいはイラストレーションやテキストといった要素を用いて、
社会課題が解決されたり、新しい価値が創造されたりする展開があります。
区はその可能性を最大限に活かしながら、誰一人取り残さない、
持続可能な都市として、区民、区内事業者・団体を始め、
近隣地域、国内、世界との良好な関係を構築することをめざしています。



ITABASHI Quality
～世界に誇るメイド・イン・イタバシ～

板橋の印刷製本

発行元：板橋区産業経済部産業振興課

印　刷：株式会社オフセット岩村

製　本：大村製本株式会社